

あらゆる災害に対応した被災者用簡易服の考案について

釧路市消防本部（北海道）

遠藤 睦男

被災者用簡易服の考案に至った経緯は、NBC災害（N＝原子力災害、B＝生物剤による災害、C＝化学物質による災害）の際に、被災者の衣服を脱がせ除染する活動が私たちの任務にあることが発端です。ブルーシートで覆うにしても多くの人員を必要とし、ポンチョにしても頭部を穴に通し、全身覆うというのは至難の業です。除染する活動のときが、被災者のプライバシーが侵されやすい瞬間でもあります。また、保温等の容態管理はブルーシートでは効果的に行えず、毛布を使用すると水分が吸い込み重くなるのが実態であり、いくらあっても足りません。それら被災者の除染活動を容易にさらに迅速に行えるように考案しました。

近年の災害を見ますと、私たちの予想をはるかに上回る被害が発生し、複雑かつ大規模で、残念ながら多くの犠牲者も出ています。そのような、大災害に簡単迅速に威力を発揮出来るよう工夫、改良を重ね、今回の発表にいたりました。

1 構成

ポンチョの形を頭部（キャップ）、背部、胸部に3分割のシートで構成し各部分の要所を小さなマジックテープでつなぎとめ着衣、脱衣を簡単に行えるように改良しました。（写真1）

材質は、ロールシートを使い、今回の試作品は470cm×100cmが1セット分の量です。

2 改良前の問題点とメリット

- (1) 被災者のプライバシー保護は、私たちの現場でも例外ではなく、個人のプライバシーを如何に守り、情報の流出を防ぐかは行政機関に与えられた課題でもあります。特にマスメディアによる報道は広域かつ立体的にさらに、タイムリーに流されることが予想され、それらから被災者のプライバシー保護を迅速に対応できるようにしました。
- (2) 毛布等は一度濡れると、体温（容態）管理ができないのが現状です。ロールシートは、薄い材質ですが、実に保温性に優れています。また、表面はフィルムで加工されており防水性に優れ、水が浸透しません。

(3) ポンチョを採用している本部もあるように聞いております。しかし、実際使用してみると着衣は容易とはいかず、意外に手間取ります。分割することにより容易に着せることができるようになりました。さらに、ポンチョだと全身を覆うことができませんでした。しかし、今回考案の簡易服は胸部、背部を長くすることで、全身余すことなく覆うことができポンチョの難点を解決できます。

また、担架に剤（以下生物剤、化学剤等をいう。）や泥さらに汚物等が付着する恐れも解消でき、次の使用に即対応できます。

(4) 多数の被災者が発生した場合、錯乱した現場ではどこの隊がいつどこでという情報の把握は困難を極めます。そこで、胸部側シートには、救出した隊名・救出した場所・経過時間を書き込めるようにしておくことにより、救出からトリアージを含め、医療機関搬送までの時間管理を徹底することができます。

安価で保管に場所をとらないことから、各消防隊に積載し、寒い時期での交通事故等での負傷者の体温保護。水難事故さらには山岳事故に至るまで、あらゆる災害に活用できます。

(5) 被災者の衣類や所持品は、現在ですとビニールの袋に一括入れて、処理あるいは被災者に手渡されていますが、この被災者用簡易服は、胸部側に取り外し可能な透明のビニール袋を付け、IDカードや各種免許証が収納できるようにしてあります。そのことで身元が確認しやすく、取り違いの防止ができます。

さらに、被災者の貴重品の管理もできます。

3 さいごに

胸部側シートの赤い印や各文字の表示は、現在では簡単に印刷できます。

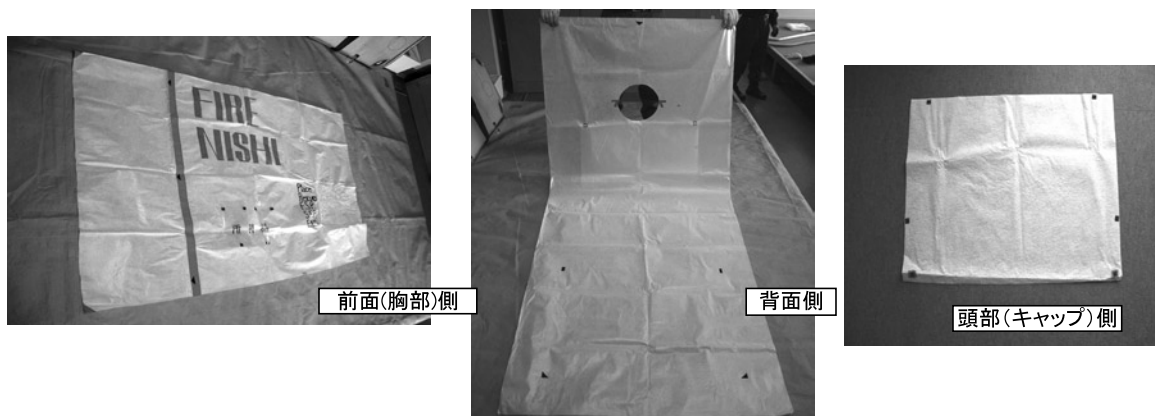
『消防』・『警察』・『自衛隊』・『海上保安部』等救助に携わる各行政機関の名称を入れることにより、大量に生産でき、ますます安価にかつ簡単に製作可能です。

試作品では、マジックテープを矢印代わりに三角に小さく切り、各シートをつなげてます。しっかり付きしかも、簡単に取り外しができるのもマジックテープの利点です。

また、今回の試作品より背部のシートを短く、頭を通す穴から長く取り、積

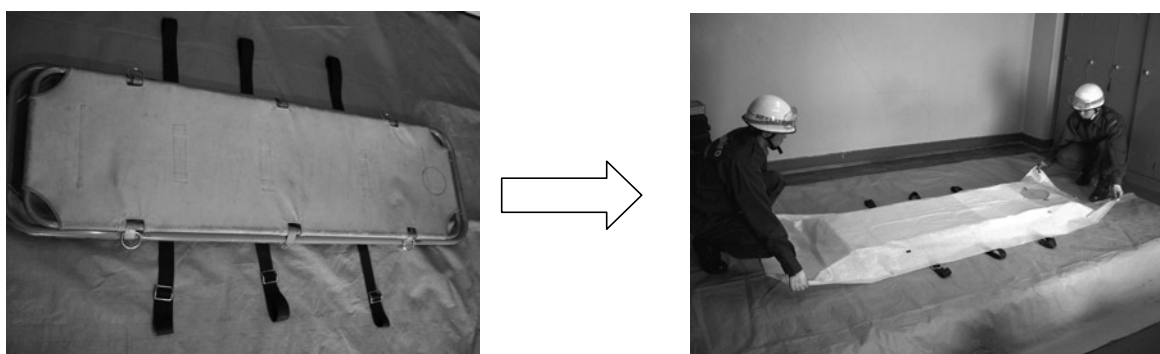
載しておくことで、簡単なポンチョとして、被災者の保温が簡単にできますことを付け加えておきます。

被災者用簡易服の構成（写真1）

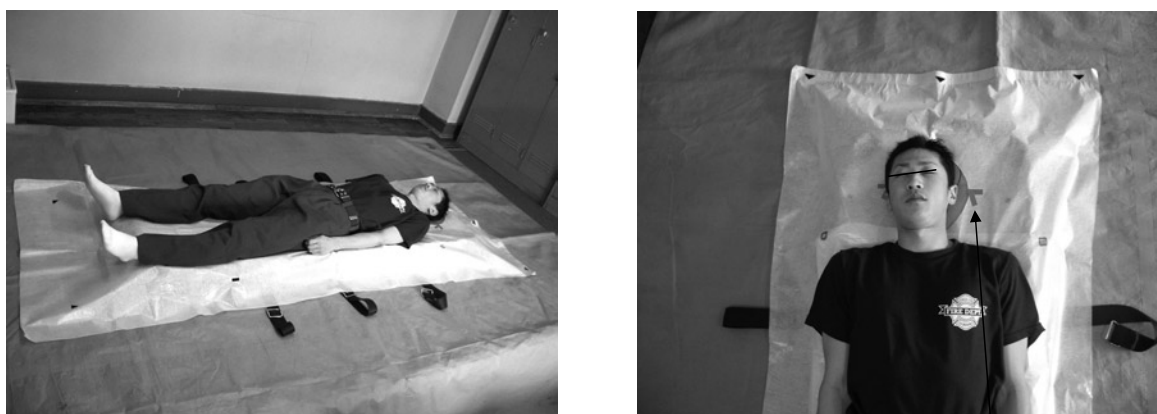


被災者用簡易服の着装要領

1 担架等に、背面側を敷く



2 被災者を收容する



被災者の耳を赤い矢印に併せる。

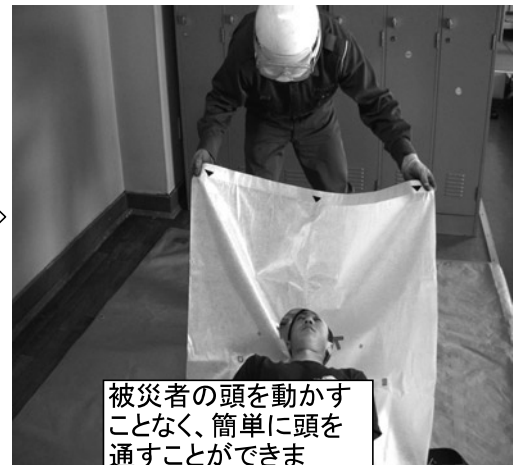
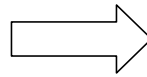
3 前面側を要救助者にかける



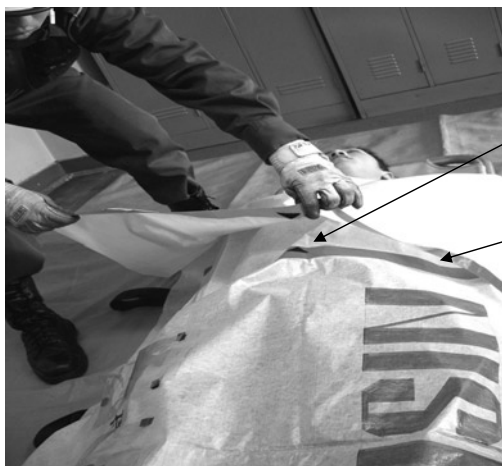
頭部側を示す赤の印(左右にある)



4 被災者の頭部を通す



被災者の頭を動かすことなく、簡単に頭を通すことができます！！



前面側、背面側にはマジックテープがついている

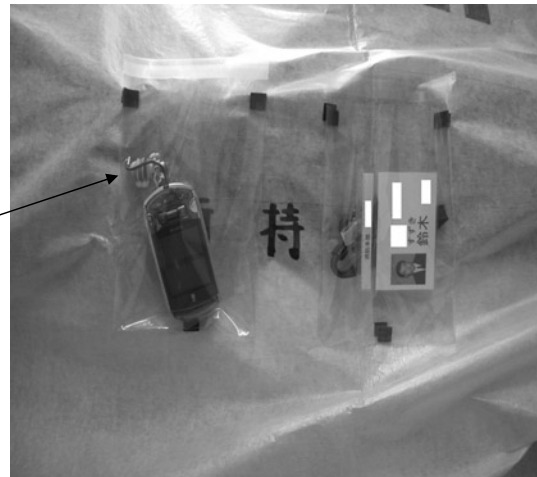
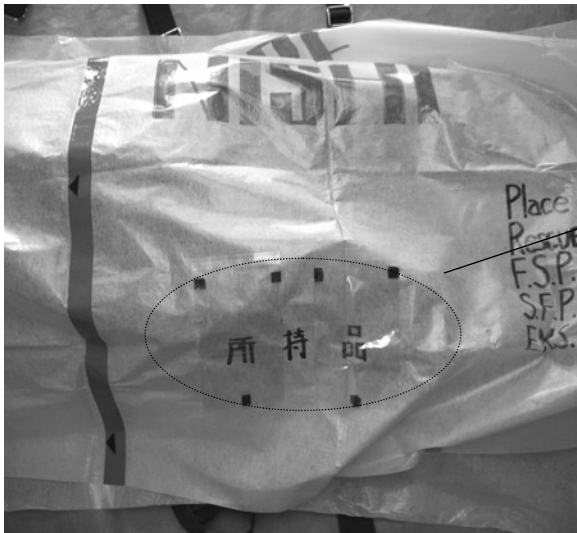
両方の赤いラインを重ねる

5 キャップをかぶせる



キャップをかぶせた状態

6 被災者に所持品があれば収納袋に収納する



所持品収納袋は、今日ではあたりまえになったIDカードや各種免許、財布、携帯電話等を収納させることができる。被災者の身分を明確にするとともに、被災者の取り違いを防止する。マジックテープにより取り外しが自由でそのまま医療機関等にも持ち込むことができる。また、ふたには両面テープがつき密閉可能！

7 前面側の特徴



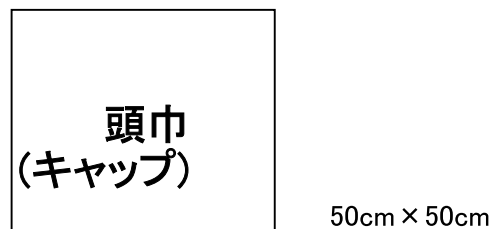
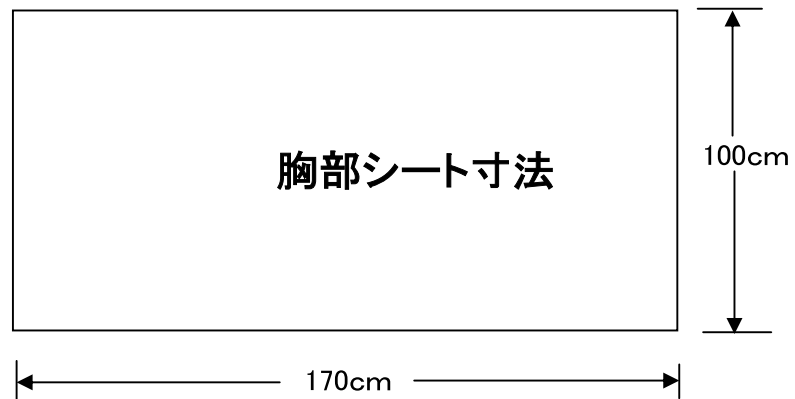
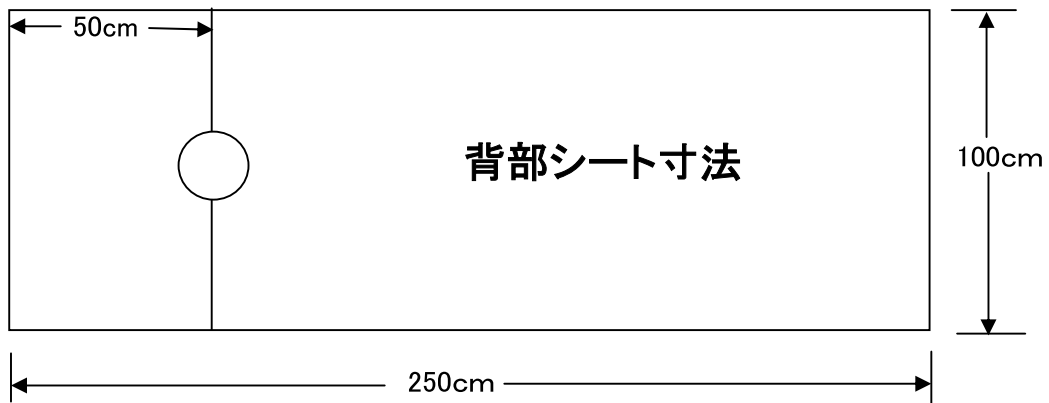
ここには『救助した場所』・『救助した時間』・
『第一次除染時間』・『第二次除染時間』・
『救急隊引継ぎ時間』等を明記できるようにした。

プライバシー保護は当然のこと、マスメディアによる広域・立体的な広報活動に対応すべく『FIRE』の文字をあしらった。
このことで警察や自衛隊等の救助機関と差別化がお互いに図れるとともに、今後ますます重要になる消防広報の目的も達成できる。



着装完了！

被災者用簡易服寸法図



★ロールシート材質：スーパーレース不織り布、
表面フィルム加工

470 × 100で1セット作成可能